

ロゴスバイブルソフトウェア

ギリシャ語語形コードの解説(LOGOS 社による)

作業中

村上定幸

インタリニアのギリシャ語の上にカーソルを置くと、品詞が表示されます。この code ですが、解説がマニュアルにはみられません(添付されている日本語のファイル、help から見ることができる英文の解説にも)。そこで、初めて見る者には、ギリシャ語原形の下におる、何ヶタかのアルファベットの表記を分かりにくいものにしてあります。

この文書の目的は、ロゴスバイブルソフトウェアギリシャ語語形コード(lbs 形態+el)中で使われたコード及びコード順についての情報を提供することである。

この語形コード構造の現在のバージョンは、語形に基礎をおき、表記法への理解を提供することを目的にしています。複数のパース法/同じ語形が可能な所では、われわれは、問題の言葉の最も適切なパース法を示したいと思う。

複数のコードが、問題となる言葉に適切である(単に可能であるだけでなく適切である)と考えられているときには、これらのコードの(表記)順は、重要であると考えられるものからとし、最初のコードは、より適切なもので、二番目のコードを二番目に、最もありそうなものとしている。以下そのようになされている。

われわれが、いくつかの屈折(declension=名詞・代名詞・形容詞の数・性・格による変化)が、いくつかのパース法/同じ語形のコード表記になるかもしれないことに気がつくなら、二つまたは三つの意味あるパース/同じ語形が、与えられた言葉にあるであろうということは、われわれの期待するところである。

品詞

以下の品詞が現在サポートされる。大文字の太字は、語形構造における品詞を表している一文字コードを表している。品詞を表している文字が、その単語において見るからない時は、それは括弧に続いて示している。

品詞はいつも語形コードの中で最初のフィールドで示される。それは、以降のどのフィールドがコードセット内の配置のために許されるかを決定する。

- . 形容詞.....J
- . 名詞..... N
- . 定冠詞..... D
- . 代名詞..... R
- . 動詞..... V
- . 接続詞..... C
- . 助動詞..... B
- . 間投詞..... I
- . 前置詞..... P
- . 接頭接尾辞.....T
- . 不変化詞.....X

これらのコードに、2桁目以降の情報が続きます。最初の文字で品詞が確定されることとなります。

各品詞は普通の言葉で議論される。コード化された違うフィールドは、後に説明されるであろうが、これらのそれぞれが、いくらかのオーバーラップ(例えば格、数、および性はいくつかの違う品詞によって存在する)を持っているので、各品詞が説明された後に、各フィールドの内容の定義は理解されるであろう。

形容詞

形容詞は以下のフィールドを含んでいる：

- | | |
|-------------|------------------|
| . 格 | Case |
| . 数 | Number |
| . 性 | Gender |
| . 級 (オプション) | Degree(optional) |

名詞

名詞は以下のフィールドを含んでいる：

- | | |
|-----|--------|
| . 格 | Case |
| . 数 | Number |
| . 性 | Gender |

定冠詞

定冠詞は以下のフィールドを含んでいる：

- | | |
|-----|--------|
| ． 格 | Case |
| ． 数 | Number |
| ． 性 | Gender |

代名詞

代名詞は以下のフィールドを含んでいる：

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ． 代名詞タイプ（関係代名詞・指示代名詞など） | Pronoun-type |
| ． 人称(ダッシュ ‘ - ’ は値を持たない) | Person |
| ． 格 | Case |
| ． 数 | Number |
| ． 性 | Gender |
| ． 人称代名詞サブタイプ（人称代名詞にのみ有効） | Personal-subtype |

動詞

動詞は以下のフィールドを含んでいる：

- | | |
|-------------------------|--------|
| ． 時制 | Tense |
| ． 態 | Voice |
| ． 法(ダッシュ ‘ - ’ は値無しを示す) | Mood |
| ． 人称 | Person |
| ． 数 | Number |
| ． 格（オプション） | Case |
| ． 性(オプション) | Gender |

接続詞

接続詞は、様々な程度に個別に引用されてきた資料に依存することで処理される。すなわち LXX と NT に関連した語形的なデータベースは、接続詞のヨセフスや使徒教父文書などのデータベースより具体的な分類を可能にしているだろう。

- | | |
|-----------|---------------------|
| ． 連結タイプ | Conjunction Type |
| ． 連結サブタイプ | Conjunction Subtype |

副詞

副詞は、様々な程度に個別に引用されてきた資料に依存することで処理されるだろう。すなわち LXX と NT に関連した語形的なデータベースは、副詞のヨセフスや使徒教父文書などのデータベースより具体的な分類を可能にしているだろう。

． 副詞タイプ Adverb Type

分詞

分詞は、様々な程度に個別に引用されてきた資料に依存することで処理されるだろう。すなわち LXX と NT に関連した語形的なデータベースは、分詞のヨセフスや使徒教父文書などのデータベースより具体的な分類を可能にしているだろう。

． 分詞タイプ Particle Type
(副詞と分詞のタイプは同一)

変化しない言葉

変化しない言葉は以下のフィールドを持っている：

． タイプ Type

他の品詞

現在、以下の品詞は、それらの品詞のために識別記号を付けられるにとどまっている。いくつかの資料(例えば新約聖書)はこれらの品詞に、更に拡張性を持つであろう。けれども、他のテキストではあまり拡張性というものがないようである。

(拡張性については、将来に作業において文書化されるだろう)

． 接続詞 Conjunction
． 副詞 Adverb
． 間投詞 Interjection
． 前置詞 Preposition
． 分詞 Particle

上の二つは両方とも P であらう。

品詞フィールド情報

以下のフィールドタイプは上で使われる。

ここまでに掲げた、それぞれの部分にあてはめられる具体的な意味が次に続きます。

． 格 Case
． 数 Number
． 性 Gender
． 級 Degree
． 時制 Tense
． 態 Voice
． 法 Mood

． 人称	Person
． 数	Number
． 代名詞タイプ	Pronoun-type
． 代名詞サブタイプ	Pronoun-subtype
． 接続詞タイプ	Conjunction-type
． 接続詞サブタイプ	Conjunction-subtype
． 冠詞等(小詞)	Particle-type
． 副詞タイプ	Adverb-type
． 不変化詞のタイプ	Indeclinable-type

これらのフィールドの内容は下のように定義される。上の品詞コードと同様に、大文字のボールド体文字は一般的ななコードを示す。

コードの中には、次のような記号で現れます。

格

以下の格がサポートされる。

． 主格	Nominative
． 与格	Dative
． 属格	Genitive
． 対格	Accusative
． 呼格	Vocative

数

以下の数がサポートされる。

． 単数形	Singular
． 複数形	Plural
． 両数形	Dual

性

以下の性がサポートされる。

． 男性	Masculine
． 女性	Feminine
． 中性	Neuter

人称

以下の人称がサポートされる。人称は、そのコードのために文字の代わりに数を使うこと

がユニークである。

- | | |
|----------|---------------------|
| ． 一人称 | First Person (1) |
| ． 二人称 | Second Person (2) |
| ． 三人称(3) | Third Person (3) |

代名詞タイプ

以下の代名詞タイプがサポートされる。

- | | |
|-------------|----------------|
| ． 関係代名詞 | Relative |
| ． 相互代名詞 | reCiprocal |
| ． 指示代名詞 | Demonstrative |
| ． 相関的(K) | correlative(K) |
| ． 疑問詞 | Interrogative |
| ． 不定 | indefinite(X) |
| ． 再帰 | reFlexive |
| ． 所有代名詞・形容詞 | poSsessive |
| ． 人称 | Personal |

代名詞サブタイプ

以下の代名詞サブタイプが、人称代名詞飲みをサポートされる。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ． 集中的な付加限定語 | intensive Attributive |
| ． 集中的な述部語 | intensive Predicative |

級

以下の級がサポートされる。 このフィールドは常にオプションである。

- | | |
|-------|-------------|
| ． 比較級 | Comparative |
| ． 最高級 | Superlative |
| ． その他 | Other |

接続詞のタイプ

以下の接続詞タイプ値がサポートされる。

- | | |
|-------|-------------|
| ． 論理的 | Logical |
| ． 副詞的 | Adverbial |
| ． 名詞的 | Substantive |

インタリニアで、例えば、MK。 1 : 2 の Kathws を見ると

ギリシャ語語形 (ロゴス) として

接続詞、副詞、比較

と記されています（あくまでもロゴスによる解析であることを示しています）

同じく、1:5の kai は2回とも

接続詞、論理、連結

と解析されています。

このように、品詞+機能を morphological code としています。

BibleWorks の旧約聖書ヘブル語には、二番目のコード郡 Secondary Codes メニューバーの online help contents Morphological Code Table で表示されます：Version-7 で確認 を用いてその後を説明していますが、その使い方とも異なっています。

接続詞サブタイプ

以下の連結サブタイプ値がサポートされる。これらは文脈に依存しており、サブタイプ値は接続詞タイプ値に依存する。

論理的であるもの

． 上昇的なもの	Logical
． 連結語	Ascensive
． 対照的なもの	coNnctive
． 相関的であるもの	Contrastive
． 離接接続詞的であるもの	correlative(K)
． 語勢的なもの	Disjunctive
． 解説・説明的なもの	eMphatic
． 推理上のもの	eXplanatory
． 過渡的であるもの	Inferential

副詞的なもの

． 原因となっている	causal (Z)
． 比較（級）的なもの	coMparative
． 譲歩的なもの	coNcessive
． 条件的なもの	Conditional
． 宣言的なもの	Declarative
． 局所的なもの	Local
． 目的	Purpose

- . 結果 Result
- . 一時的なもの Temporal

名詞的なもの

- . 内容に関するもの Common
- . 補足に関するもの Epexegetical

副詞タイプ

以下の副詞タイプがサポートされる。

- . 条件付け Conditional
- . 相関的である(K) correlative(K)
- . 著しい Emphatic
- . 不定(X) indefinite(X)
- . 疑問詞 Interrogative
- . 否定的 Negative
- . 場所 Place
- . 最高 Superlative

不変化詞（小詞（副詞の一部・冠詞・前置詞・接続詞・間投詞など語尾変化のない品詞））

以下の不変化詞がサポートされる。

- . 条件付き Conditional
- . 相関的である(K) correlative(K)
- . 語勢的 Emphatic
- . 不明確である indefinite(X)
- . 疑問詞的 Interrogative
- . 否定的 Negative
- . 場所的 Place
- . 最高 Superlative

変化しないタイプ

変化しない言葉の以下のタイプがサポートされる。

- . 文字 Letter
- . 固有名詞 Proper noun
- . 数字 Numeral
- . 外国語 Foreign word

． その他

Other

MT1:2のアブラハムのところには
XPのコードが付されている。“固有
名詞”

時制

時制の以下のタイプはサポートされる。

． 現在

Present

． 未完了

Imperfect

． 未来

Future

． 未来完了

fuTure-perfect

． アオリスト・不定過去

Aorist

． 完了

peRfect

． 過去完了

pLuperfect

態

態について以下のタイプがサポートされる。

． 能動態

Active

． 中動態

Middle

． 受動態

Passive

． 中・受動態

U

(すなわち中動または受動のどちらかである可能性があるもの、それは‘決定できない’または‘組合による’ものである)

法

法について以下のタイプがサポートされる。

． 直接法

Indicative

． 接続法

Subjunctive

． 願望法

Optative

． 命令法

iMperative

． 不定法

iNfinitive

． 分詞

Participle

ここで、分詞が動詞として扱われているか、名詞的に用いられているか、区別が全然ないことに注意を払うことが重要である。

表で示すと、次のような構造と順番になります。

名詞 / 名詞に類するもの				
Part of speech 品詞	Case 格	Number 数	Gender 性	Degree 級 形容詞のみ
Noun 名刺	Nominative 主格	Singular 単数	Masculine 男性	Comparative 比較級
Definite article 定冠詞	Dative	Plural 複数	Feminine 女性	Superlative 最上級
adjective 形容詞	Genitive	Dual 両数	Neuter 中性	Other その他
	Accusative			
	Vocative 呼格			

その他 / 一般的なもの			
Adverb-type 副詞タイプ	Particle-type 分詞タイプ	Indeclinable-type 不変化詞タイプ	No-type タイプなし
Conditional 条件 correlative (K) 関係	Conditional 条件 correlative (K) 関係	Letter 文字	Interjection 間投詞
Emphatic 語勢	Emphatic 語勢	Proper noun 固有名詞	Preposition 前置詞
Indefinite (X) 不定	Indefinite (X)	Numeral 数	
Interrogative 疑問	Interrogative 疑問	Foreign word 外国語	
Negative 否定	Negative 否定	Other その他	
Place 場所	Place 場所		
Superlative 最上級	Superlative 最上級		

動詞						
時制	態	法	人称	数	格・オプション	性・オプション
Present 現在	Active	Indicative	1	Singular	Nominative	Masculine
Imperfect	能動	直接	2	単数	主格	男性
未完了	Middle	Subjunctive	3	Plural	Dative	Feminine
Future 未来	中道	接続		複数	与格	女性
fuTer-perfect	Passive	Optative		Dual	Genitive	Neuter
未来完了	受動	希求		両数	属格	中性
Aorist	middle	imperative			Accusative	
不定過去	passive	命令			目的格	
	(U)	infinitive			Vocative	
peRfect 完了	中受動	不定			呼格	
pLuperfect	態	Participle				
過去完了		分詞				

代名詞				
Pronoun-type 代名詞タイプ	Person 人称	Case 格	Number 数	Gender 性
Relative 関係	1	Nominative	Singular	Masculine 男性
reCiprocal	2	主格	単数	Feminine 女性
相互	3	Dative	Plural	Neuter 中性
Demonstrative	no person(-)	与格	複数	
指示	人称なし	Genitive	Dual	
Correlative(K)		属格	両数	
相関		Accusative		
Interrogative		目的格		
疑問		Vocative		
Indefinite(X)		呼格		
不定		Personal-pronoun-subtype 人称代名詞サブタイプ		
reFlexive		intensive-Attributive 属性強調 (強い) 限定語		
再帰		intensive-Predicative 述語(部)強調		
poSsessive				
所有				
Personal				
人称				

接続詞			
Type	Logical -types	Adverbial -types	Substantival -types 名詞的用法タイプ
Logical 理論的	Ascensive 強意	Causal (Z) 原因	Content 内容
Adverbial 副詞的	coNnective 結合	coMparative 比較	Epexegetical 強調
Substantival (実)名詞的	Contrastive 対比(内容)	coNcessive 譲歩	エペクセジェティ カルとして、カタカ ナ表記の訳書もあり ます。LOGOS のコー ドでは“補足説明” とします。新約聖書 に6回現れる。
	correlative(K) 相関	Conditional 条件	
	Disjunctive 分離	Declarative 宣言	
	eMphatic 語勢(強調)	Local 局所	
	eXplanatory 解説	Result 結果	
	Inferential 推論	Purpose 目的	
	Transitional 移行	Temporal 時間	

実際の画面では次のようになります。

ヨハネ黙示録 1 ; 9 に出てくる

パトモスと<呼ばれる> kalew の下にある

VPPP-SDF は、その上で解説されているように

動詞、現在、受動態、分詞、人称なし、

単数、与格、女性

という具合です。

ですから、これ等のアルファベットはなくても大丈夫。

表の中で、新約聖書 6 回としたのは、以下の 6 節

マタイ 8:8	καὶ ἀποκριθεὶς ὁ ἑκατόνταρχος ἔφη· κύριε, οὐκ εἰμι ἰκανὸς ἵνα μου ὑπὸ τὴν στέγην εἰσέλθῃς, ἀλλὰ μόνον εἰπέ λόγῳ, καὶ ἰαθήσεται ὁ παῖς μου.
マタイ 8:27	οἱ δὲ ἄνθρωποι ἐθαύμασαν λέγοντες· ποταπὸς ἐστὶν οὗτος ὅτι καὶ οἱ ἄνεμοι καὶ ἡ θάλασσα αὐτῷ ὑπακούουσιν;
マタイ 10:25	ἄρκετὸν τῷ μαθητῇ ἵνα γένηται ὡς ὁ διδάσκαλος αὐτοῦ καὶ ὁ δοῦλος ὡς ὁ κύριος αὐτοῦ. εἰ τὸν οἰκοδεσπότην Βεελζεβούλ ἐπεκάλεσαν, πόσω μᾶλλον τοὺς οἰκιακοὺς αὐτοῦ.
マタイ 26:16	καὶ ἀπὸ τότε ἐζήτει εὐκαιρίαν ἵνα αὐτὸν παραδῶ.
ルカ 7:6	ὁ δὲ Ἰησοῦς ἐπορεύετο σὺν αὐτοῖς, ἥδη δὲ αὐτοῦ οὐ μακρὰν ἀπέχοντος ἀπὸ τῆς οἰκίας ἔπεμψεν φίλους ὁ ἑκατοντάρχης λέγων αὐτῷ· κύριε, μὴ σκύλλου, οὐ γὰρ ἰκανὸς εἰμι ἵνα ὑπὸ τὴν στέγην μου εἰσέλθῃς.
ルカ 8:25	εἶπεν δὲ αὐτοῖς· ποῦ ἡ πίστις ὑμῶν; φοβηθέντες δὲ ἐθαύμασαν λέγοντες πρὸς ἀλλήλους· τίς ἄρα οὗτός ἐστιν ὅτι καὶ τοῖς ἀνέμοις ἐπιτάσσει καὶ τῷ ὕδατι, καὶ ὑπακούουσιν αὐτῷ;

また、代名詞で、強い限定語を属性にしている個所は、次のルカ福音書における5か所。

ルカ 2:8	Καὶ ποιμένες ἦσαν ἐν τῇ χώρᾳ τῇ <u>αὐτῇ</u> ἀγραυλοῦντες καὶ φυλάσσοντες φυλακὰς τῆς νυκτὸς ἐπὶ τὴν ποιμνὴν αὐτῶν.
ルカ 2:38	καὶ <u>αὐτῇ</u> τῇ ὥρᾳ ἐπιστᾶσα ἀνθωμολογεῖτο τῷ θεῷ καὶ ἐλάλει περὶ αὐτοῦ πᾶσιν τοῖς προσδεχομένοις λύτρωσιν Ἱερουσαλήμ.
ルカ 10:7	ἐν <u>αὐτῇ</u> δὲ τῇ οἰκίᾳ μένετε ἐσθίοντες καὶ πίνοντες τὰ παρ' αὐτῶν· ἄξιος γὰρ ὁ ἐργάτης τοῦ μισθοῦ αὐτοῦ. μὴ μεταβαίνετε ἐξ οἰκίας εἰς οἰκίαν.
ルカ 17:35	ἔσονται δύο ἀλήθουςαι ἐπὶ τὸ <u>αὐτό</u> , ἡ μία παραλημφθήσεται, ἡ δὲ ἑτέρα ἀφεθήσεται.
ルカ 23:40	ἀποκριθεὶς δὲ ὁ ἕτερος ἐπιτιμῶν αὐτῷ ἔφη· οὐδὲ φοβῆ σὺ τὸν θεόν, ὅτι ἐν τῷ <u>αὐτῷ</u> κρίματι εἶ;